

# 誰でもなり得る病気

## 神奈川県

「アルコール依存症り得る病気」。3月25日には備員がある。怠け日、横浜市で地域福祉推進を考えるセミナーが開かれ、民生委員や救護施設職員など約120人が集まった。



グループワークで参加者と話す荒木さん（中央）

基調講演したのは、簡易宿泊所が集まる横浜・寿地区にある「ことぶき共同診療所」の鈴木伸院長。脳を車に例え「脳のお酒のブレーキが壊れ、走り出したら止まらない。本人も周りもブレーキが壊れたと思っていない」と説明。成人男性の推計2%がアルコール依存症（厚生労働省）、大麻より身体依存になりやすい（世界保健機関）というデータも示した。

## アルコール依存症セミナーに120人

治療には、原則断酒が必要だと強調し「お酒をやめると心に穴が開く。しかし、一人でこの穴を埋めるのは難しいため、人とのかわりで癒やされる自助グループが有効だ」とグループワークでは、高齢者や女性の依存者が話した。

続いて36歳でアルコール依存症の診断を受けた荒木俊博さん（49）が登壇。がん再発の不安や口下手で緊張を和らげるため酒量が増えた。飲酒する記憶をなくすブランクアウト症状が出るという。現在はNPO法人「市民の会寿アルク」の第1アルク・デイケア・センターの施設長として依存症からの回復を助ける指導者として働く。荒木さんは「日本には隠す文化があるが、抱え込まないでほしい」とした。

アルコール依存症の

## エリア情報

◆投稿募集＝全国各地の福祉現場の日常の出来事や活動を紹介しています。福祉施設や地域のお祭り、団体の取り組みなど、写真を添えて投稿してください。  
toukou@fukushishimbun.co.jp